

あいち病害虫情報 最新情報

平成25年8月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

残暑、まだ続く！！

本日発表の気象予報によれば、向こう1か月は平年と同様に晴れの日が多く、気温は高い確率50%と見込まれています。特に1週目（8月17日～23日）は高い確率が60%と厳しい残暑になりそうです。ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、的確な防除を心がけましょう。また、作業は朝夕の涼しい時間帯に行うなど、健康管理に留意しましょう。

ウンカ類

セジロウンカの水田での発生量は、8月上旬の調査では、成虫、幼虫ともに平年並でした。

トビイロウンカについては、予察灯に続き、水田内での発生も確認しました。今のところ、県内での被害は確認していません。トビイロウンカは、同一ほ場内でも、場所により生息数に大きなばらつきがありますので、注意してほ場を見回り、発生を確認したら、収穫前日数に留意して、適宜、防除を実施してください。

斑点米カメムシ類に注意！

斑点米の原因となるカメムシ類は、8月上旬の調査では、水田内、畦畔雑草ともやや多い発生量となっています。一部には、多発ほ場もありますので、引き続き注意してほ場を見回り、水田内又は畦畔雑草で斑点米カメムシ類を確認したら、7月2日発表の「平成25年度病害虫発生予察注意報第2号」を参考に適切に防除してください。

ダイズのオオタバコガ、ハスモンヨトウに注意！

近年、ダイズでもオオタバコガの発生が増加しつつあり、本年も8月上旬の調査で、発生量が多いほ場を認めました。オオタバコガについては、本日発表の「平成25年度病害虫発生予察注意報第3号」を参考に、適切に防除してください。

ダイズにおけるハスモンヨトウの発生量及びフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並に推移しています。しかし、今後しばらくは気温が高く、ハスモンヨトウの発生に好適な状況が続くことから、急激に増加するおそれがあります。ほ場での発生状況に十分注意して、白変葉を確認したら早めに防除をしてください。

果樹の病害虫

チャバネアオカメムシの予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は、少ない状況が続いています。7月下旬のヒノキ球果の口針鞘数調査によれば、スギ・ヒノキ林内で成育した当年成虫が果樹園へ飛来し始めるのは、本年は9月上旬以降と予測します。ただし、幸田町須美では8月下旬から果樹園への飛来が始まるおそれがあります。また、今年は果樹カメムシ類の餌となるスギ・ヒノキ球果の量が平年に比べやや多いため、当年成虫の発生量はやや多いと予測します。ほ場への飛来状況に注意しましょう。詳しくは、8月1日発表の「果樹カメムシ情報第2号」を参照してください。

チャノキイロアザミウマ第6世代成虫の発生ピーク日は、名古屋市8月25日、伊良湖8月28日、南知多町、蒲州市及び豊橋市8月29日、愛西市8月30日、豊田市及び岡崎市9月2日、新城市9月6日、稲武町における第4世代成虫の発生ピーク日は、8月19日と予測します（8月15日までの実測値で計算）。粘着トラップにおける誘殺数は、南知多町、蒲州市ともにやや多い状況です。ミカン果頂部が加害される時期ですので、発生ピーク予測

を参考に防除しましょう。

ナシヒメシクイのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並です。ナシでは果実が熟してくると成虫の飛来が多くなります。収穫前日数に注意して防除をしましょう。

ナシ黒星病の発生が一部地域でやや多い状況です。来年の伝染源にならないよう被害落葉の処理を徹底し、収穫後の防除をしましょう。

野菜・花き類のチョウ目害虫に注意！

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年に比べて多い状況が続いています。キクでは例年、9月になってからオオタバコガによる被害が増加しますので、発生動向に注意しましょう。防除については、本日発表の「平成25年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並です。例年、8月から9月にかけて発生が増加します。ほ場周辺のサトイモやダイズ畑の被害状況を参考にし、ほ場での発生に注意し、適宜防除しましょう。

アブラナ科野菜は、発芽、定植直後にハイマダラノメイガに加害されると、大きな被害になります。播種時や定植時に薬剤処理が可能な作物では処理を行い、初期被害を防ぎましょう。

今後、高温が予想されており、チョウ目害虫の繁殖に好適な環境が続く見込みです。発生が急激に増えることもありますので、ほ場での発生状況に注意してください。キャベツ、ブロッコリー、ハクサイなどの苗や、早まきのダイコンでは、防虫ネットを設置して成虫の飛来を防止しましょう。

トマトのタバココナジラミ

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミの発生が各地で見られます。施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置するとともに、施設内での発生に注意し、早期防除に努めましょう。

- 農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）
今年度の重点事項は次の3つです。
 - 1 農薬ラベルの十分な確認
 - 2 農薬の飛散防止
 - 3 農薬の盗難・紛失等の防止
- 農薬を使用する前に、ラベルの内容をよく確認し、使用方法を守りましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 暑い時期です。作業中に熱中症にならないよう注意しましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820